

先端技術の先の先を読む



広島工業大学名誉教授
中山 勝矢

暮れはお歳暮の配達で、宅配は超多忙でした。今は誰しも宅配なら注文した品物が翌日届くことを知っています。それで通販だけでなく、購入したら店で宅配を頼むわけです。

最近の郵便局も様変わりです。「全国の銘品はこちらでご注文を承ります」として幾多の贈答品のカタログを並べ、販売に努めているのですから驚きます。(写真1)

● 読めないイノベーションの先

かつてトランジスタは「3本足の巨人」と持て囃されたことがありましたが、ミサイルでは激しい振動のため制御系に使用できず、代るものとして集積回路(IC)が提案されました。

これは半導体の表面に金属薄膜で微小な抵抗やコンデンサーなどを作ることで、ワンチップコンピュータを目指したのです。開発が進められたのは1960~70年代でした。

その利用はいろいろ考えられ、家電商品にも多数組込まれましたし、さらに通信技術と結ばれてインターネットとなつていきます。次々と夢が芽を出す時代だったと言えます。

専門家の間ではインターネットだけでなくマルチメディアとか、さらにはバーチャルOOとか、聞きなれない言葉が氾濫し、具体的なイメージの組立てに苦労させられました。

電線は電力が電話の伝達、つまり声を運ぶだけの時代に、マルチメディアではデータから画像・映像まで一緒に送り処理できるというのですが、ちんぷんかんぷんでした。

その頃、バーチャルモール(VIRTUAL MALL)の説明も聞きました。それは「サイバーモールとも言ってインターネット上に設けられた仮想店舗の商店街」だということです。

つまり今日お馴染みの通販のことです。当時は経済産業省の研究所で研究課題の審査や査定の仕事をしていたのですが、提案内容が把握できず、困った覚えがあります。

世間にお目見えしていないが故に、ときどき新しい名称を付けて申請してくる研究者がいました。そこには夢があり、新しい夢が時代を切り開くこともよく分かっています。



(写真1) 最近の郵便局では多くの贈答品のカタログが並べてある。依頼すれば、たちまち全国の顧客に届けられる時代になっている。

とはいえ提案された課題を、先の先まで深く、また幅広く読み解くのは本当に難しい。いつできるのか明らかでなく、社会的にどのような影響を及ぼすのかも分かりません。

40年以上前バーチャルモールの説明のとき、その席で「そのうち宅配業者に荷物が殺到するだろうな」という発言がありました。いま、宅配の超多忙を聞く度に思い出します。

●先の先を狙うビジネス

バーチャルモールの話が合った頃、1995年にジェフ・ベソスが本の通販で有名なアマゾン社(Amazon.com)を設立したのでした。利用者は現在18億人に達しています。

(写真2)

ある時期、売上げが伸びていないという情報が流れましたが、それは拡大戦略を展開するために、多数の流通拠点を設けることに力を注いでいた時期だったようです。

今アマゾン社の拠点は世界中にあり、本だけでなく様々な商品を扱うようになってきました。わが国でこれに類するのは楽天市場ですが、他にも面白いビジネスが生まれています。

日本商工会議所が運営するバーチャルモールには、全国の地域商工会議所が営むバーチャルモールがリンクされ、各地の土産物を探すのに便利だという話も紹介されています。

あるいはまた、質屋の品が探し出せるバーチャルモールもあるし、驚くことには「お部屋探し」といって、賃貸アパートやマンション情報をお届けするものまであると言います。

こうなるとリアル世界の商店街と同じような店が立ち並び何でもありの感じです。インターネットで探して注文し、入手したらクレジットカードかコンビニで支払うわけです。

コンピュータが介在しているので、すでにビットマネーが使えるサイトも出てきていると言います。こうした変化は研究段階ではなく、ビジネスの中で生まれるのです。

時代の変化はじわりじわりと進みます。何でもあって賑やかだったデパートや町の小さな商店街の客足が減り、一方で宅配便が人手不足に悩む時代になっています。(写真3)

単にIoTを称えるのではなく、奥が広く深い革新的な課題については特に先の先を想い描き、絶えず次の時代に対する対処法を考えていたいものです。



(写真2) アマゾン社(Amazon.co.jp)の案内ページ。中央上にある本は設立者ベソスの伝記であるが、面白いことにどれも新刊書から古書までそれぞれに値段が付けてある。



(写真3) かつて賑やかだった商店街でもシャッターを下ろした店が多い。